様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２７ 日現在

機関番号：７２６８１
研究種目：基盤研究(A)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５２４４００３

研究課題名（和文）インド的共生思想の総合的研究――思想構造とその変容を巡って

研究課題名（英文）Comprehensive Study of Symbiosis in Indian and Buddhist Thoughts: With reference to the construction of thoughts and its transformation

研究代表者
釈　悟震（SHAKU, GOSHIN）

公益財団法人中村元東方研究所・その他部局等・専任研究員

研究者番号：８０２７０５３６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　21,000,000円

研究成果の概要（和文）：今日我々は、様々な次元でグローバリゼーションを進める要求が高まる一方で、民族主義や原理主義のリバウンド傾向が強まる、非常に難しい時代を過ごしている。残念なことに現代の世界的な緊張と紛争の多くは、宗教の名において拡張しているものと何らかの形で結び付いて見られている。そこで、本プロジェクトは、世界的な緊張と紛争を乗り越える思考の新しい枠組みや解決策を構築する方法として、インドと仏教思想の可能性に新たな光を投じた。20人の全研究構成員は、中国、韓国、日本など東アジアに及ぶ、共生のアイデアを含む課題解明に取り組み、文学的・哲学的アプローチや現地調査の方法を駆使し、その成果を報告書として公刊した。

研究成果の概要（英文）： Today we live in difficult times and face highly uncertain situations.One concerning situation is the increasing advancement of globalization everywhere; the other situation is the unintended progression of aggressive nationalism and religious fundamentalism that is notably concerning humanity. Particularly, most of those tensions and conflicts are connected with conflicts in religious beliefs. To address these situations, we have made an attempt to throw a new light by using Indian and Buddhist thought as the futuristic way for solving such global issues by presenting a new intellectual paradigm that promotes peace and harmony. There are twenty researchers contributed their works, and they have used sources from Indian and Buddhist philosophy together with East Asian sources from Chinese, Korean and Japanese sources. The research methodologies are centered on philological, philosophical, and fieldwork researches. [A detailed report on this is added in a separate page]

研究分野：インド哲学仏教学・宗教学・比較宗教学

キーワード：宗教共生思想　宗教間対話の可能性　異文化共生思想　仏教とキリスト教の対話　仏教的平和と共生　研究成果の社会還元　異文化共生思想の研究　宗教多元主義

１．研究開始当初の背景

本企画は、宗教・民族紛争の絶えない国際社会に対して、「多様性の統一」と表現される、インド的な共生思想の研究を通じて、紛争解決に資する思想的な枠組みの基本情報を提供しようという意図のもと、基盤研究（A）(2)「中世インド思想の総合的研究」(前田專學：平成 14～16. 以下「前田科研」と表記)、並びに同「インド宗教思想の多元的共存と寛容思想の解明」(釈悟震：平成 19～21、以下「釈科研」と略記）に続く、インド思想研究の一環であると共に、現実世界の問題解決を志向するインド思想研究であるため、社会的な貢献度の高い研究成果を期待できるものである。

本企画は直接的には、「釈科研」の研究成果から浮上した新たな課題を掘り下げ、その発展を目指すプロジェクトである。先行する「釈科研」においては、以下の点が、課題として残された。つまり、インド社会においては、多様な宗教、思想の共存が実現し、独自で豊かな「多様性の統一」と形容される思想伝統、つまり寛容思想が形成されてきた。このインド的寛容思想解明の試みが「釈科研」であり、その成果は報告書『インド宗教思想の多元的共存と寛容思想の解明』(553 頁）にまとめられた。しかし、この寛容思想の現実的かつ具体的な展開としての共生思想の検討は、宿題として残された。

インドにおける共生思想は、具体的には輪廻思想など独自の循環構造を基本とする独特の枠組を持ち、その構造は仏教やヒンドゥー教等各宗教により独自に展開し、またアジア各地に広がり、現在でも大きな影響を持っており、日本もその例外ではない。その意味で、インド的な共生思想は、汎アジア的、少なくとも東・東南アジア地域の研究とリンクさせ、各地域の共生思想と比較研究することを通じて、アジア共通の思想となりうるのではないかと考えられる。

勿論、インド的寛容思想には高名なインド学者の P. ハッカーの批判のように、自己満足的“包括主義”的な側面が見出されるが、「釈科研」では、自己が与かる教理、信仰体系に誠実な余り、他宗教を排除、批判するセム的な宗教の持つ苛烈さとの対比において、このインド発の寛容思想は、「東洋的融和」思想、つまり共生の思想の基礎として、積極的に評価されるべきだ、との結論に達した。故に本研究では、この共生思想について輪廻思想を基礎に、梵我一如、アートマン、無我、業、縁起、慈悲などのタームを選びこれらを中心に総合的に検討する。これらの言葉は従来個別に研究されて来たが、本研究では共生思想の基礎として、一括して検討する。また本研究は、共生思想の比較研究を通じてその多様性を明らかにし、現代的な意義について考察すると同時に、その成果を積極的に発信してゆくものである。このインド的共生思想の研究は、近代的な寛容思想の欠を補うものであり、新たなる平和思想構築への思想的な可能性でもある。またこの視点はインド哲学者の故中村元博士が生涯をかけて追究した視点でもあり、本研究は、中村元博士の遺志を受け継ぎ、発展させるものでもある。

２．研究の目的

「インド的共生思想の総合的研究――思想構造とその変容を巡って」を課題とした本研究は、インド的共生思想形成の思想的背景、あるいはその論理構造を明らかにするとともに、この思想がインドの各宗教、並びにインド思想・宗教が伝播した地域で具体的にどのように展開されたかを検討することで、いかに変容したかを、文献のみならず現地調査なども踏まえて総合的に研究する。さらに、このインド的共生思想の研究成果を、民族、宗教紛争問題解のため積極的に国内外に提言し、日本がアジアの孤児にならぬためにも、日本発のアジア的共生思想形成の基礎研究としたい。故に、アジア各地の第一線のインド思想・宗教研究者を招き共生思想のシンポ

ジウムを開くなど、研究の成果は国内外に発表し社会的還元も積極的に行う。

３．研究の方法

本プロジェクトは、インドの共生思想の影響を持つ東アジア、東南アジア諸地域における共生思想の変容を、キーワードに沿って具体的に比較検討するものである。そのために、主に宗教思想研究を基本とし、領域横断的、学際的な研究を重視する。さらに現在深刻さを増す民族・宗教紛争解決のため、共生思想研究の視点から現地調査なども積極的に行う。

特に、インドをはじめ東アジア三国（中国・韓国・日本）の学術交流を積極的に行い、国際的な視野から討究する方向性も打ち出す。上記のように、本研究は社会性の高いテーマであることから、積極的にその研究成果を世界に発信する予定である。具体的には、内外の研究機関と積極的に交流し、国際会議を開催する。また、日本におけるインド的寛容及び共生思想の先駆的研究者の中村元博士の研究を継承発展させることを目指した。

４．研究成果

本プロジェクトの最終年度である 2016 年は、イギリスの EUI 離脱、アメリカのトランプ政権の誕生に象徴される、反グローバル化の運動として、自民族・自国第一主義の利己的、自閉的な傾向が世界のうねりとなってきた。何故なら従来のグローバル化は、欧米先進国が自らの自己利益を目的とする利己的なグローバル化であり、本研究において追求してきたインド思想、さらに言えば仏教思想が説く融和的共生関係を目指すものとは大きく異なっていたからである。その意味で、欧米中心のグローバル化の限界が顕わになって来た今日、本プロジェクトが明らかにしてきた、多元的で、共助的なインド思想の展開した融和思想の意義が、一層大きくなったといえるのではないだろうか。

以上の観点を踏まえていうならば、今日わたくしどもは非常に難しい時代を過ごしているといえよう。様々な次元でグローバリゼーションを進めるという要求がますます高まっている一方で、ナショナリズムや片側原理主義のリバウンド傾向がますます高まっている。現代の世界的な緊張と紛争の多くは、宗教の名において拡張されているものと何らかの形で結びついているように思われることは誠に残念である。

これらの現代的な問題を考慮して、本プロジェクトは、世界的な緊張と紛争を乗り越え、思考の新しい枠組みや解決策を構築する方法として、インドと仏教思想の可能性に新たな光を投じるべくグローバルな共存と世界の平和の促進を希求し、コアプロジェクトメンバーすなわち、連携研究者 7 名、研究分担者 8 名、研究協力者 3 名、招聘研究者 2 名を合わせて 20 名が研究年間である 4 年に亘ってそれぞれの専門を活かし、本プロジェクトの課題を解明したく力を尽くした。我々が目指した研究は、主に中国、韓国、日本の哲学や宗教を含む東アジアの思想の領域にまで広がっている様々な種類のインドや仏教の宗教、哲学、文学のテキストに見られる共生の思惟方法の真理を見極めると同時に如何にインド的共生思想を人類史に活かせることが出来るからをより学際的見地において明らかにすることであった。その研究方法を具体的に今一度いうならば、文献学的または思想構造的に解明するため、文学的または哲学的アプローチからフィールドワークまで幅広いものであった。

以上の諸般を総括し、仏教を含むインド的共生思想を軸に、その影響が及ぶ南アジア、東南アジア、中国・韓国・日本の共生思想にまで視野を広げて、哲学・宗教・文学の文献解析を中心に実地調査や哲学的考察等も交えて、各メンバーの専門に即した最新の研究成果を下記の論考としてまとめた。本プロジ

ェクトの成果報告書は専門家だけではなく、不特定多数の方々もより普遍的な観点から課題を御理解していただきたく上呈したものである。ここに総括的にその論題を下記のように列挙しその成果を強調するものである。

①前田專學「日本におけるインド的共生思想の発端と回顧」、②丸井浩「平和思想としての仏教の可能性―中村元博士からのメッセージを探る」、③保坂俊司「インドにおけるイスラームとの共生思想研究―西北インドの二つの運動を中心に」、④日野紹運「諸宗教の調和 ―ヴィヴェーカーナンダの普遍宗教と「貧者への奉仕」―」、⑤水野善文「インド説話にみる共生―Pañca-divyādhivāsaを中心に―」、⑥山下博司「インド移民の宗教実践に見られる「インド的共生」―インドネシア・ジャカルタ首都圏のヒンドゥー寺院の事例―」、⑦有賀弘紀「ヨーガ学派の思想構造の形成の背景ーサーンキヤ学派の実践論的視点から」、⑧佐藤宏宗「インド大乗仏教における「空性」と「智慧の究極性」という条件」、⑨佐々木一憲「引き算の思想―共生主義思想としての初期大乗仏教とその基盤」、⑩佐久間留理子「マハーカーラ尊の研究所説―仏教とヒンドゥー教との共生の視点から」、⑪釈悟震「宗教対話による人類の共生を求めて ― 宗教激変のスリランカを中心に ―」、⑫吉村均「生きた思想としての仏教と共生―『入菩薩行論』を中心に」、⑬奈良修一「ジャワの共生思想：『ババッド・タナハ・ジャーウィー』を中心に」、⑭金子奈央「叢林における「死者との共生」－禅宗の葬送とその経済的側面からー」、⑮金鍾瑞「韓国における宗教間の共生論理」、⑯加藤みち子「熊野信仰における共生思想」、⑰森和也「仏典翻訳にみる儒教と仏教の架橋―荻生徂徠と慈雲飲光」、⑱Krombach,HAYO,B.E.「Cultural and Philosophical Conditions of Dialogical Coexistence」、⑲MATHEW VARGHES「Nagarjuna and four-value logic-final」、⑳Sengaku Mayeda「Ashoka's *Dharma* and Shiio's *Kyosei* (Symbiosis): Buddhism and Social Order in Ancient India and Contemporary Japan」

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計８件）

①丸井　浩、世界平和への希求―人類の教師、中村先生からのメッセージの重み、日本仏教教育学研究、査読有、24、2016、19-41

②山下　博司、岡光信子、バダガ族の近現代―南インド・ニールギリ高原一部族の社会変化の諸相―、東方、第 32 号、2017、123-145

③保坂　俊司、仏教とイスラームの連続と非連続―多神教徒との共存可能性をインドのスーフィズム思想に探る―、梅村坦編、中央ユーラシアへの現代的視座、査読有、2016、1－39

④佐久間　留理子、ネパールの不空羂索観自在マンダラ：儀軌と布製絵画、印度学仏教学研究、査読有、第 65 巻、第 2 号、2017、886-892

⑤加藤　みち子、痴兀大慧の『廓庵十牛図』理解、東方、査読有、第 32 号、2017、1-25

⑥金子　奈央、『徹通義介禅師喪記』における提衣とその変容、東方、査読有、第 32 号、2017、91-109

⑦水野　善文、故知のクンビーラ―金毘羅由来説再考―、『智山学報：小峰彌彦先生・小山典勇先生古稀記念・転法輪の歩み』、査読無、第 65 輯、2016、103-122

⑧森　和也、三教一致論の「一致」の水準、宗教研究、査読無、第 90 巻別冊、2017、346-348

〔学会発表〕（計７件）

①加藤　みち子、東アジアと日本の天道信仰、仏教思想学会第 32 回学術大会、2016、7 月 9 日、大正大学

②釈　悟震、この不毛を乗り越えて、NHK ラジオ第二放送、宗教の時間、放送:2016 年 5 月 22 日(日曜日)、午前 8:30-9:00 再放送:2016 年 5 月 29 日(日)、午後 6:30-7:00

③釈　悟震、この理不尽の不毛を乗り越えて、大阪 ABC ラジオ放送、2017 年 1 月 15 日(日曜日)午前 8:00-8:10

④釈　悟震、この不毛を乗り越えて―歴史的証言を教訓にて今を考える、大阪 ABC ラジオ放送、2017 年 3 月 19 日、午前 8:00-8:10

⑤釈　悟震、宗教対話による人類の共生を求めて―宗教激変のスリランカを中心に、平成 27 年度鶴岡文庫・東方学院共催講座「東洋思想から共生を考える」神奈川県鎌倉市

鎌倉八幡宮鶴岡文庫、3 月 27 日(日) 13:30-15:30(基盤研究(A)『インド的共生思想の総合的研究―思想構造とその変容を巡って』(25244003)の一環)
⑥釈　悟震、上座部仏教の実践、NPO 法人中村元記念館東洋思想文化研究所、東方学院松江校特別講座、2016 年 3 月 5 日(土) 13:30-16:50. 3月6日(日) 10:30-14:30(基盤研究(A)『インド的共生思想の総合的研究―思想構造とその変容を巡って』(25244003)の一環)
⑦釈　悟震、異宗教間の共存は可能か(Symposium)、東洋大学、2013 年 11 月 30 日(土)13:00-15:00.(基盤研究(A)『インド的共生思想の総合的研究―思想構造とその変容を巡って』(25244003)の一環)

〔図書〕(計７件)
①前田　専學　春秋社、インド思想入門―ヴェーダとウパニシャッド、2016、280
②釈　悟震　他、めこん社、上座仏教事典、2016、 686
③山下　博司　他、東京堂出版、インドを知る事典、2016、448
④奈良　修一、山川出版社、鄭成功南海を支配した一族、2016、86
⑤加藤　みち子、中央公論新社、鈴木正三著作集(1),(2)』、2015、(1)194、(2)327
⑥佐久間　留理子、春秋社、観音菩薩：変幻自在な姿をとる救済者、2015、264
⑦保坂　俊司、プレジデント社、格差拡大とイスラーム教、2015、118

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
釈　悟震（SHAKU, Goshin）
(公財)中村元東方研究所・専任研究員
研究者番号：８０２７０５３６

(2)研究分担者
前田　専學（MAYEDA, Sengaku）
(公財)中村元東方研究所・総括研究員
研究者番号：４００１１３６６
有賀　弘紀（ARUGA, Koki）
(公財)中村元東方研究所・専任研究員
研究者番号：５０２９０９９５
加藤　みち子（KATO, Michiko）
(公財)中村元東方研究所・専任研究員
研究者番号：１０３０６５２４
金子　奈央（KANEKO, Nao）
(公財)中村元東方研究所・専任研究員
研究者番号：００５５８５３８
佐久間　留理子（SAKUMA, Ruriko）
(公財)中村元東方研究所・専任研究員
研究者番号：６０２８０６５８
奈良　修一（NARA, Shuichi）
(公財)中村元東方研究所・専任研究員
研究者番号：００２６０１２５
森　和也（MORI, Kazuya）
(公財)中村元東方研究所・専任研究員
研究者番号：６０２７７７８８
吉村　均（YOSHIMURA, Hitoshi）
(公財)中村元東方研究所・専任研究員
研究者番号：２０２８０６５４

(3)連携研究者
池澤　優（IKEZAWA, Masaru）
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：９０２５０９９３
小野　基（ONO, Motoi）
筑波大学・大学院人文社会科学研究科・教授
研究者番号：００２７２１２０
山下　博司（YAMASHITA, Hiroshi）
東北大学・大学院国際文化研究科・教授
研究者番号：２０２３０４２７
丸井　浩（MARUI, Hiroshi）
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：３０２２９６０３
水野　善文（MIZUNO, Yoshihumi）
東京外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：８０２０００２０
日野　紹運（HINO, Shoun）
愛知学院大学・文学部・教授
研究者番号：６０１６５１２３
保坂　俊司（HOSAKA, Shunji）
中央大学・総合政策学部・教授
研究者番号：８０２４５２７４

(4)研究協力者
佐々木　一憲（SASAKI, Kazunori）
佐藤　宏宗（SATO, Koshu）
マシュー・ヴァルギース(MATHEW VARGHES)